

映像証拠：父ブッシュがモンサントと遺伝子操作を共謀

【訳者注】よくできたビデオである。これをよく“鑑賞”すると、これはモンサントの願いにブッシュが応じたというより、ブッシュの方が積極的であるような印象を与える。実情はどうか、J.D. Heyes のいう“7語”（Call me...we're in the dereg business）から、アメリカの GMO 一等国（同時に GMO 地獄）が始まったのだろう。これと、「子宮頸癌ワクチン」騒動は深いところにつながっているだろう。

GeoengineeringWatch.org

September 16, 2015



我々の政府は、国家スポンサーによる犯罪組織以外の何ものでもない。権力陰謀団をリードする者たち、それに奉仕する者たちは、彼ら自身のアジェンダを永続させるためにのみ存在している。

「みんなのため」という考えは決して彼らの頭がない。侵略戦争から、地球的气象操作、遺伝子操作された“フランケン食品”に至るまで、権力構造は力にまかせて、やりたいことを何でもやっている。陰謀団はどうして、彼らの行為に対するどんな反響にも、こんなに耳を貸さなくなったのか？

それは、これまで一般大衆に、自分自身の快樂の追求より、子供たちの未来を護ることを優先する意欲がなかったことによる。今、あらゆる方面の壁が閉じられつつあるときに、この共通の脅威を否定したりごまかしたりしても、現実から逃れることはできない。地球的气象操作計画によって、我々すべては、毒性の空の下で生き、呼吸しなければならなくなった。遺伝子操作された作物によって、我々の食品が完全に汚染されたことで、我々すべては、食べるに適さないものを食べなければならなくなった。

下の論文と2分間のフィルムは、いま進行中の GMO（遺伝子操作種子）という悪夢を完全に出発させた、ジョージ・H・W・ブッシュとモンサント社の癒着を、よくとらえている。これは現在、世界を支配している犯罪者同士の“きまったやり方”の、よく目立つ例である。読者は自分で学習して、警鐘を鳴らす人たちに加わっていただきたい。——Dane Wiginton（デイン・ウィギントン）

<http://www.geoengineeringwatch.org/the-dark-cloud-of-monsanto-continues-to-expand/>

<https://experiencelife.com/article/frankenfood-genetically-modified-foods/>

<http://www.geoengineeringwatch.org/monsantos-chemical-assault-against-the-web-of-life/>

<http://www.geoengineeringwatch.org/introducing-geoengineering-climate-engineering-to-the-uninformed/>

モンサント社がジョージ・H・W・ブッシュと共謀し、米政府を通じて GMO 帝国を広げようとした貴重なフィルム

ソース : Natural News, by J.D. Heyes

http://www.naturalnews.com/051180_George_HW_Bush_GMOs_Monsanto.html

遺伝子操作された食品の支持者は、この概念は大した問題ではなく、人間は何世紀も昔から交配とか食品の“変種作り”をやっている、と我々にとtivわせようとしている。

しかし実際は、実験室で創られた GMO 種子と食品は、伝統的な交配種とは大きくかけ離れている。実際、後者は過去数十年の歴史しかない。

セントルイスに拠点を置くバイオテック巨大企業モンサントの、熱心なロビー活動がもしなかったら、GMO 種子はおそらく、アメリカには全く導入されていなかったであろう。

AtHealthWorks は、1986 年、モンサントの 4 人の重役がホワイトハウスを訪れ、世界最強の政府の貴重な後ろ盾を得ようとして、当時の副大統領ジョージ・H・W・ブッシュと会見したと報告している。

ロナルド・レーガン大統領は、彼の 2 期目の政権の、まだ後 2 年を残していたが、父ブッシュが 1988 年の大統領選に出馬することは、その当時すでに広く信じられていた。

<https://youtu.be/fCer5NmEw5U> (父ブッシュとモンサント 2:48)

規制撤廃大統領に賭ける

レーガン政府は、経済改革、軍備増強、それに、力と影響力が落ち始めていたソ連との断固

たる交渉など、多くの業績で知られていた。しかしレーガンはまた規制撤廃主義者でもあった。もし商業、工業、また経済一般が利益を得るために、ワシントンで赤テープをカットできることがあれば、彼は喜んでそうした。

そこにモンサントが登場する。この会社は、この時代の規制撤廃バンドワゴンに便乗することを狙っていた。

AtHealthWork によると――

一年後に、ブッシュが餌に食いついて、この会社の本部を訪問した――会社の科学者や代表との個人的な時間を含む、メディアのイベントに出席するために。

モンサントの代表は、彼らの危険な、テストしていない **GMO** 種子を市場に出す許可が欲しかったので、ブッシュに訴え、許可を引き出そうとした。

ブッシュのした返事が、幸福な無知と無責任の文化をつくり出すきっかけとなり、それ以来、モンサントの異論の多い“フランケン作物”が、事実上、誰にも反対されず出回るようになった。

会社にとって、これは何千万ドルが賭けられた問題で、農業省はその規制上の認可のプロセスが厳しいために、沢山の克服しなければならない規制的ハードルがあった。

1987年に、モンサントは困った立場に立たされた。会社は、彼らの **GMO** 作物を、自然の環境、すなわちイリノイ州の農場で、テストし始める必要に迫られていた。しかし彼らは先に進むには、米農業省の認可が必要だった。

最初、モンサントの経営陣は、**GMO** 種子をゆっくりと導入する用意をしていた。しかし会社は、認可のプロセスにますます欲求不満となり、健康や環境の安全テストのような、“官僚ハードル”と呼ばれる、ホワイトハウスの強硬派が好むものを取り払おうとする、より攻撃的な戦術を選ぶことにした。これはモンサントのカギの問題だった、と映画「モンサントに従う世界」のナレーターで監督の、マリ・モニーク・ロビンは言っている。

<http://www.naturalnews.com/film.html>

この映画の一場面で、メディアのカメラがフラッシュして、記者がノートを取っているとき、ブッシュが、モンサントの科学者や代表者と一緒になっている。一人の科学者が、**GMO** 食品がどうやって作られるのかの基本を説明しようとする。

すべてを変えた7語

「…私たちは DNA を取り出し、それを切り離し、異なった切れ端を一緒に混ぜ、それからもう一度つなぎ、(ブッシュ「スプライスだね」)元の状態にするのです」と彼は言っている。
「この試験管には、あるバクテリアから作られた DNA が入っています。」

ブッシュはこれに応じて質問する、「これでより強い植物が作れるのだね、それともそれは抵抗…？」

「この場合には、除草剤に対する抵抗力をもちます」とモンサントの代表者が言う。別の代表者が加えて、「我々は驚くべき除草剤をもっています。」

彼らが話していたのは、Roundup、グリフォセートを含む製品のことで、その主成分は発がん物質の可能性が高いことが、最近、WHO によって宣言された。

このあと、究極的にモンサントに有利にゲームを転換させる、7語が発せられた。ここでブッシュは笑い、規制プロセスを早めてほしいというモンサントの願いに対し、「電話しなさい、…規制撤廃は我々の仕事だ (we're in the dereg business)」と言っている。それからこうつけ加える、「多分、力になれると思う (Maybe we can help)」

ここから、アメリカの GMO 産業の隆盛が始まった。そして多くの人々が証明しているように、それはアメリカの消費者の犠牲において成長しつつある。

このクリップの最後近くで、ブッシュの副大統領ダン・クエールがアナウンスをして、他の諸国がこれを禁止しているにもかかわらず、アメリカでは、GMO 種子が急速に進歩発展した本当の理由を説明している。